

平成20年9月議会 一般質問

1、 災害時の備蓄について

- ① 今現在の斑鳩町の災害時の備蓄品の状況はどのようになっているのか。
- ② 県内の市町村に比べて、災害時の備えは充実しているのか。
- ③ 現在の備蓄量で災害時の各ライフラインが復旧するまで十分な備えになっているのか。

2、 住民が分かりやすい、コスト分析について

- ① 家庭から出るゴミ1袋あたり処理するのに、いくら経費がかかるのか。
- ② 他に、住民票の発行コスト、町民プール1回の利用コスト、及び図書館の1冊あたりの貸し出しコストは、いくらになるのか。
- ③ これらのコスト分析を落とし込んだ数値から、たとえばゴミ1袋あたり「・円」かかっています、皆様のさらなる資源化、減量化のご協力をお願いいたします。というようなメッセージを発信することができないか。

最近行なわれた全国世論調査から、今住んでいる地域で大地震が起こるのではないかと不安を感じている人は、国民全体の75%にもなっておりました。我が斑鳩町においても、ほんまに大丈夫やろうかという不安の声をよく耳にします。

災害が起こった時の重要なテーマである災害物資の備蓄について、今現在の備蓄品の内容及び量の状況はどのようになっているのか伺う。

(総務部長) 災害時の備蓄数につきましては、乾パン・ビスケットが6380食、アルファ米が13750食、うちアレルギー対応のアルファ米が900食、食料として合計20130食を備蓄し、粉ミルク950グラム入り24缶、毛布3050枚、紙おむつが、乳幼児用といたしまして3種類のサイズの合計で3000枚、同じく大人用といたしまして2つのサイズの合計で570枚を備蓄しております。

次に、避難所設備の備蓄といたしましては、身体障害者対応の仮説トイレ20台、発電機、投光器といった照明器材が20セット、応急給水を行なうための給水タンク、これは、0.5トンですけれども2個、給水バッグ、1トン用ですけれども15個、ポリパック、10リッター用ですけれども4800枚、仮説給水栓6栓を備蓄しております。

また、本年度におきましては、災害発生時等におきます救助活動の円滑化を図るため、救助に必要なパール、のこぎり、担架等の資機材や、その資機材を備蓄するためのコンテナを設置する予定でございます。

今のお答えによりますと、少し毛布の数が他のものに比べて少ないようですが、これからも計画的に整備に努めてください。

それでは、斑鳩町が他の自治体に比べて災害時の備えは充実しているのか、伺う。

(総務部長) 県内の全市町村の備蓄量の合計と当町の備蓄量につきまして、人口比の割合で比較を行ないました場合につきましては、その備蓄数の人口割では、当町の備蓄割合は高くなっている状況でございます。

また、仮説トイレにつきましても、備蓄を行なっている市町村は、県内で19団体となっております。

こうしたデータからみてまいりますと、当町の備蓄につきましては、県内の他市区町村と比較し、概ね充実しているものであると考えているところでございます。

他の市町村と比べても備蓄割合が高いということに安心致しました。特に仮説トイレを充実していただいていることは、評価出来ると思います。

では、具体的に、現在の状況で災害時の各ライフラインが復旧するまで十分な備えになっているのか伺う。

(総務部長) 最近の国内での災害発生時の状況から申し上げますと、地震災害などの大きな災害が発生した場合、全国各地から様々な方法を用いまして被災地への救援物資が届けられ、早ければ災害復旧の翌日、遅くても災害発生の日後には被災地に救援物資が届けられているところであります。

こうしたことから、当町の現在の備蓄量に関しましては、災害発生時、各ライフラインが復旧するまでの間の備えとして満たしているものと考えられているところであります。

災害は予想を超えることも考えられます。

これに安心せず、災害の備えを今後とも宜しくお願いいたします。

それでは、次の質問に移ります。

住民の目線で行政サービスを分かりやすく理解するために、深く落とし込んだコストを越しえてください。

まず、初めに、家庭から出るゴミ1袋当たり処理するのに、幾ら経費がかかるのですか。

(副町長) 初めに、家庭から出るゴミ袋1枚当たりの経費についての質問でございますが、本町では、可燃ゴミ袋で45リットル相当、30リットル相当、20リットル相当の3種類、不燃ゴミ袋で、45リットル相当、30リットル相当の2種類の指定袋を販売しております。

各サイズの指定袋を45リットル相当袋に概算いたしまして、袋1枚当たりの処理経費

ということで報告をさせていただきます。

まず、家庭の可燃ゴミであります。平成19年度では、3,894.13トンの排出があり、指定袋の交付枚数が、45リットル相当の換算で64万7,658枚となっており、1枚当たりでは、約6キロの可燃ゴミが排出されるということになります。

平成19年度では、可燃ゴミに要した直接経費が1キロ当たり38.1円となっており、1袋当たり約229円の経費を要していることとなります。

同じような算出方法で、平成18年度では、1キログラム当たり直接経費が39.1円で、1袋当たり約235円となります。

次に不燃ゴミにつきましては、平成19年度では461.34トンの排出があり、指定袋の交付枚数が、45リットル相当換算で8万9,476枚になり、1袋当たりでは約5.2キログラムの不燃ゴミが排出されていることとなります。平成19年度では、不燃ゴミに要した直接経費が1キログラム当たり106.6円であり、1袋当たり約554円となります。

同様の算出方法で、平成18年度では、1キログラム当たり92.7円で、1袋当たり約491円となっております。

今の答弁によりますと、可燃ゴミは1袋当たり約250円、不燃ゴミが約520円かかっているということです。

このように、分かりやすい数値に直すと、行政サービスが身近なものになります。それでは、他に、住民票の発行コスト、町民プール1回の利用コスト、及び図書館の1冊当たりの貸し出しコストが幾らになるのか、伺う。

(副町長) 住民票の発行コストについてであります。印刷用紙や電算ソフト使用料等の経費として423万473円がかかっており、発行枚数は、役場窓口で8,615枚の発行としております。このことから、住民票1枚当たりの発行コストは、491円となります。

次に、町民プールの利用コストでございますが、運営にかかりました経費が650万7,726円であり、入場者数は6,727人となっております。このことから、町民プール入場者1人当たりのコストは、967円となります。

最後に、図書館の貸し出しコストでございますが、運営にかかりました経費が5,919万9,879円であり、貸し出し総数は40万1,661冊となっております。このことから、貸し出し冊数1冊当たりのコストは、147円となります。

住民票は、住民利用コストに比較的近い数値やと思いますが、町民プールは、住民利用コストに対し何倍もコストがかかっていることがわかりました。

また、図書館の貸し出しコストは、1冊当たり147円とのことですが、なるほどこれ

ぐらいのコストがかかっていることがわかりました。

それでは、これらのコスト分析を落とし込んだ数値から、例えばゴミ1袋当たり何円かかっています、皆様のさらなる資源化、減量化のご協力をお願いいたしますというようなメッセージを発信できないか伺う。

(副町長) 確かに、ご指摘のように、コスト意識を持っていただくことも、ゴミ減量化・資源化の推進には必要であろうと考えておりますので、今後、処理費用の推移なども住民の皆様にお示しできるような方法も検討してまいりたいと考えております。

最後に、その他の事業におけるコスト分析について町の考えを問う。

(副町長) 町の事務事業に有する公益的な性格を考慮すると、すべての事務事業がコスト分析の結果だけで運営出来るものではありませんが、コスト分析は、事業方針を決定する上で有効な手段の一つであることも認識しております。

そうしたことから、住民の皆様身近な事務事業につきましては、その内容や経費などの情報をより分かりやすい形でお示しするなどをして、町民のご理解を願いたいと考えております。

このコスト分析は、各職員のさらなるコスト意識を高めると共に、公共料金の価格設定の妥当性を議論する際の材料になるはずです。

今後の色々な啓発に役立てていただくことを願ひまして、私の一般質問を終わります。